

生活を支える自然の水「高瀬川」

平成2年度

島根県出雲市

「高瀬川」は、1687年に松江藩が大楯七兵衛に命じて斐伊川から分水し、開削した疎水である。

当時から両側の壁面には粘土が貼ってあり、現在でも川底、擁壁（護岸）とも、殺伐とした三面コンクリートは避け、石垣や粘土等を使用している。

高瀬川の水は、沿岸800ヘクタールの水田を潤し、数は少なくなったが紺屋の藍染めの糊落としても利用されている。また、子供たちの格好の遊び場にもなっており、市民の手による清掃活動や灯ろう流し等も行われ、沿岸のヤナギの緑とかつての船宿の古い建物が川面に映える情緒豊かな景観は、市民の暮らしの中に深くとけこんでいる。



所在地	島根県出雲市大津町、今市町
諸元	延長：11.4km、幅員5m
関係する施設など	護岸
材料	木材、コンクリートなど (護岸補修)
イベント	うら盆灯ろう流し、筏下り